

「ぼうぼうネット」の活動を見学しました

2026 年 9 月 27 日（日）に、防府市にある一級河川佐波川（河口から 4km あたり）で開催された活動「鮎産卵場づくり体験」を見学しました。



「ぼうぼうネット」では、「佐波川の魅力発見！見て、触って、感じて、やってみることから使える力を育む 川づくりの使い手＝活動ボランティア・リーダー養成塾」を、高校生を対象に実施しておられます。

見学した当日は、高校生 3 名、小学生 3 名のほか、活動を指導される吉備国際大学の先生、佐波川漁業協同組合の皆さま、山口県河川課職員や河川協力団体の皆さまなど、総勢約 30 名が参加されていました。

午前 9 時に河川敷へ集合し、顔合わせとあいさつを終えた後、全員が救命胴衣を着用して川の中へ入って行きました。作業場所は、中洲を越えた先に広がる開けた浅瀬エリアです。

現地に到着すると、まず吉備国際大学の畑間教授から鮎産卵場の目的や鮎が産卵する環境づくりの説明があり、川の中から大きめの石を拾い上げて、



積み上げる作業の実演指導を受けて、川底にある石を一定の間隔で積み上げていく作業が始まりました。

幾筋もの石列が並ぶ様子は、まるで洗濯板のようです。実は、この作業を行うために前日から重機で川底を整備していたそうです。事前に耕しておくことで砂の堆積を防ぎ、石を動かしやすくするとのことで、こうした見えない準備の大切さも学ぶことができました。



©内山省三



©内山省三

1時間あまりの作業で、川の中には10数本もの石列が完成しました。石列の間には穏やかな流れが生まれ、鮎の産卵に適した環境がつけられていることを実感できました。

続いて、カワウによる食害から鮎を守るため、防鳥用の糸を張る作業が行われました。糸にはさまざまな種類があるそうですが、現在は目立たない黒色の糸が効果的とされているとのことです。カワウは見えにくい糸に触れることで警戒し、その場所に近づかなくなるそうです。実際に少し離れた場所では、多くのカワウの姿も見られ、自然と人との関わりについて考えさせられました。



途中、小雨が降る場面もありましたが、約2時間の作業を無事に終えることができました。高校生も小学生も終始楽しそうに活動しながら、協力して作業に取り組んでいる姿が印象的でした。

高校生たちは、今回の体験を通して、地元・佐波川の豊かな自然や環境保全の大切さ、そして仲間と力を合わせて取り組むことのやりがいや達成感を肌で感じたようでした。

「来年はみんなが子どもたちを指導する立場になるのだからね」と声を掛けられると、少し照れながらも力強くうなづく姿が見られました。リーダー研修として知識を教え込むのではなく、実体験の中から楽しさや責任感を育み、自然と次の担い手へと成長を促していく仕組みは、とても素晴らしいものだと感じました。



©内山省三

私自身、佐波川の名前はこれまでよく耳にしていたのですが、実際に訪れたのは今回が初めてでした。目の前に広がる澄み切った水の美しさには大変驚かされ、深い感動を覚えました。また、水辺には見慣れない植物も多く生育しており、さまざまな生きものを支える豊かな自然環境が息づいていることを実感しました。

川づくりは、単に環境を整備する活動ではなく、地域の自然を知り、その価値を次の世代へつないでいく人を育てる営みでもあることを感じました。今回の活動を通して、高校生たちが佐波川への愛着を深め、この美しい自然を未来へ受け継ぐ担い手へと成長していったほしいと思いました。そして、透き通る川の流れを眺めながら、この豊かな自然とそこに関わる人々の思いが、これからも途切れることなく次の世代へ受け継がれていくことを願っています。

～～～参加された高校生の感想～～～

- ・産卵場の整備作業はとても楽しく、やりがいを感じた。
- ・昔の人たちも同じように工夫していたのだと思うと、先人の知恵や知識を実際に体験できてとてもよかった。
- ・これまでもボランティアには何度か参加してきた。原動力は自分が楽しむこと。これからもボランティア活動に参加していきたいし、この楽しさを伝えていきたい。
- ・自然が好きなので、これからも佐波川に深くかかわっていきたい。

～～～



(本郷)

©内山省三